

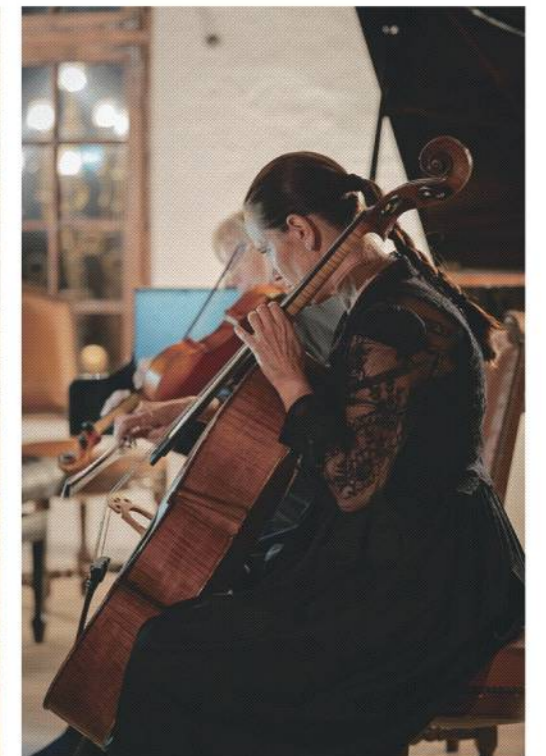
こんな日曜日が待ち遠しい。
NIKKEI
The STYLE



The Power of Music

ザルツブルク、音楽の力を信じて

オーストリアの地方都市ザルツブルク。世界最大級の夏の音楽・演劇の祭典「ザルツブルク祝祭(音楽祭)」が開幕し、8月末まで開催中だ。モーツァルトが生誕し、カラヤンなど数多くの音楽家を育てたこの街には、言語、宗教、民族の壁を越えて調和を生み、平和を希求する音楽の力が宿っている。



(写真上) 新市街の対岸に広がるザルツブルクの旧市街。中心にホーエンザルツブルク要塞(城)がそびえる (同下 左から) きよこの夜礼拝堂のステンドグラスには作曲家グラーバーの姿も(ザルツブルク郊外) / ミラベル宮殿に咲く赤いバラ(ザルツブルク市) / 街には民族衣装を着て演奏する人々の姿があった(同) / 「モーツァルトの住居」には5歳のころに書いたとされる楽譜が残る(同) / ホーエンザルツブルク要塞で開かれたコンサート(同)

The Power of Music

国境越え音楽家が集う街



聖霊降臨祭音楽祭の最後を飾るテノール歌手、ブラシド・ドミンゴのコンサートのため祝祭大劇場(右手の建物)に集まった聴衆ら(ザルツブルク市)

ザルツブルク旧市街にある祝祭大劇場の前は着飾った淑女、紳士の社交場と化していた。高級車が人波を縫うように到着すると談笑の輪が広がり、その脇を観光客を乗せた馬車が走り抜ける。見上げると、11世紀から街のシンボルであるホーエンザルツブルク要塞(城)が浮かび上がる。時代が交錯したかのような不思議な風景だ。

訪れたのは5月の「聖霊降臨祭音楽祭」。1920年に創設されたザルツブルク音楽祭が毎年7〜8月に1カ月以上にわたりコンサートやオペラ、演劇などが上演されるのに対し、こちらは指揮者のカラヤンが1973年に始めた新顔だ。期間は4日間と短い。夏の間は、夏の間は「本番」に向けてムードを盛り上げていく。

そんな劇場が並ぶ旧市街には要塞の下に約20の教会のほか、修道院、宮殿などの歴史的建造物がひしめく。様式もロマネスク、ゴシック、ルネサンス、バロックなど様々だ。ユネスコの世界遺産にも登録されているザルツブルクの旧市街は、18〜19世紀のドイツ人博物学者で探検家のフンボルトが「ナポリ、コンスタンティノール(現イスタンブール)と並んで世界で最も美しい街」と称したといわれている。



ホーエンザルツブルク要塞で開催された演奏会。市内では年間4500回もの演奏会が開かれる



モーツァルト大学ではスペイン人教授のシブラン・シエラ・ヴァスケスさん(右)による授業が行われていた



「ムジクム」でイタリア人の先生にクラシックギターを学ぶミラさん(左)

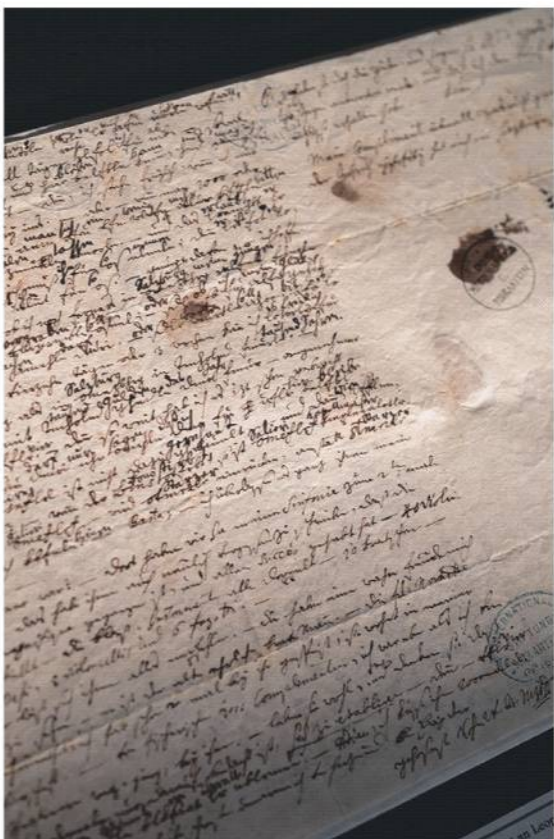
を背景にした広場がそのまま屋外の劇場と化するのも醍醐味のひとつだ。欧州文化史が専門の横濱国立大学教授、小宮正安さんは、街自体が舞台装置であり、祝祭が街を育て、街が祝祭を育てるという姿勢が受け継がれているという。

「モーツァルト音楽祭」を開催。生誕100年にも記念音楽祭を開くなどモーツァルトの街として存在感を高め、1920年についに第1回のザルツブルク音楽祭を実現した。天才な現在の街の繁栄はなかったと言っても過言ではない。モーツァルト広場、モーツァルト小橋、モーツァルト大学、モーツァルト管弦楽団……。市内の至るところにその名を冠したところがある。

かつて住居だった建物を再建した博物館で地下に保管してある手紙や楽譜などの一部を見せてもらった。分厚い金属扉を開けるとひんやりとした小部屋が広がる。温度は19〜20度、湿度は44%に保たれている。直筆の楽譜が約100点、手紙は約600通のうち半分がモーツァルト直筆という。一番古い楽譜は5歳ごろに作曲したものだそう。父親が代筆した可能性が指摘されているほど丁寧に書かれた五線や音符に、神童ぶりの一端がうかがえた。



市内には胸像などモーツァルトに関連するものが多く残る



1781年4月にモーツァルトが父に宛てた手紙(モーツァルトの住居にて)

「4人が同じ時間の感覚を共有することが重要です。時折、自ら演奏しながら学生に何度も問いかけていく。第1バイオリンの佐々木木芽さんは「教わりたい先生を追いかけた。ここにたどり着きました」と話す。言語や国境を容易に越える音楽の普遍性を改めて認識させられた。

音楽の街としての懐の深さを実感したのは1948年に設立された音楽院ムジクムだ。地方政府やスポンサーの支援などで授業料の負担を抑えつつ一流の教育を提供する。6〜18歳を中心に生徒は州全体で1万3千人に及ぶ。ここからプロを目指す人もいるが、院長のルードリッヒ・ヌービスピヒラーさんは「重要なのは何かを究めることではなく、過程です」と話す。

教室では昨年9月から習い始めた9歳のミラさんがクラシックギターに取り組んでいた。将来の希望を聞くと彼女は「獣医さん」とこたえた。

